



振動応用技術で、世界をひらく

コンクリートカッターシリーズ 湿式バキュームカッター 取扱説明書

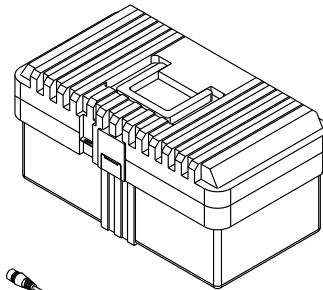
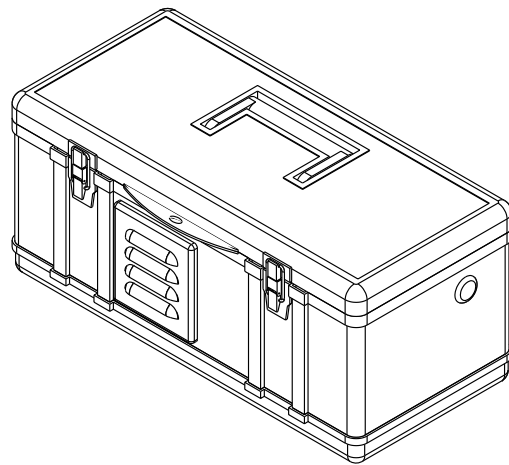


VRC14A

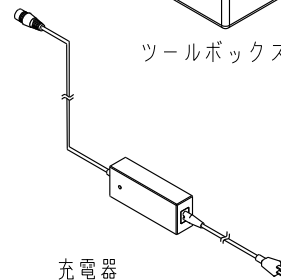
★お買い上げありがとうございます。
ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

イクセン株式会社

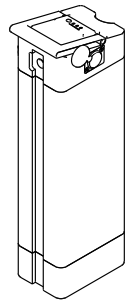
VRC14A同梱部品内容



ツールボックス



充電器
FY2903000



バッテリー充電ボックス
アッセン

バッテリー
B24104



キー



蝶ボルト



スパナ
M24



スパナ
M36



取扱説明書



プラグレンチ

部品名称	数量	備 考	同梱
バッテリー B24104	1	予備バッテリー	ツール ボックス内
キー	2	予備バッテリー用	
充電器 FY2903000	1	—	
蝶ボルト M6 X 35	3	ブレードケース下台固定用予備	
片口スパナ M24	1	ブレード取り付け・交換用	
片口スパナ M36	1	ブレード取り付け・交換用	
取扱説明書 (エンジン用・カッター用)	各1	—	
プラグレンチ	1	エンジン点火プラグ用	—
バッテリー充電ボックス アッセン	1	バッテリー充電専用ボックス	

※ 上記同梱部品がすべて揃っていることをお確かめください。

☆ 安全情報

- ☆ この製品は路面補修やガス・上下水道・ケーブルなどの配管工事でのコンクリートやアスファルトの切断、コンクリート舗装道路新設時における目地の切断などに使用する機械です。この目的以外には使用しないでください。
- ☆ 製品の安全性については十分に配慮していますが、この説明書の危険、警告、注意をよくお読みいただき正しくお使いください。
- ☆ この製品を第三者へ貸し出す場合は製品の安全性について十分に説明し、取扱説明書も同時に貸し出してください。
- ☆ ご使用になられる前に、本書と合わせてエンジンの取扱説明書もお読みください。
- ☆ 下記の表示は万一にも他人や自分に障害や損害を与えることのないように、この製品を使用していただくための危険表示・警告表示・注意表示です。

	危険 (DANGER)	【危険】は、死亡または重傷を負う可能性のある切迫した危険な状況を示す表示
	警告 (WARNING)	【警告】は、死亡または重傷を負う可能性のある危険な状況を示す表示
	注意 (CAUTION)	【注意】は、軽傷または中程度の障害を負う可能性のある危険な状況を示す表示

- ☆ エンジンには、（社）日本陸用内燃機関協会の自主規制適合エンジンを搭載しています。

危 険

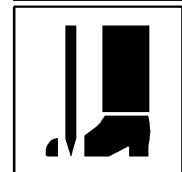
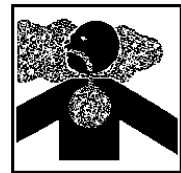
(死亡事故を受けないために)

- ⚠ 燃料給油時は必ずエンジンを停止してください。エンジンが十分冷えてから行ってください。
- ⚠ 燃料の給油は屋外の火気がない場所で行ってください。引火する恐れがあります。

警 告

(死亡事故を受けないために)

- ⚠ この製品は気密性の高い場所や換気の悪い場所では使用しないでください。
排気ガス中毒や酸欠状態になり死亡する恐れがあります。
- ⚠ エンジンの燃料タンクに燃料が入った状態で、自動車の荷台などに載せて運ばないでください。燃料がこぼれて火災になる恐れがあります。
- ⚠ 燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってください。火災になる恐れがあります。
- ⚠ この製品には乗らないでください。
- ⚠ この製品の改造は行わないでください。またブレードケース、ベルトカバーなどをはずして運転しないでください。回転中のベルト、プーリに手や身体が触れるとけがをします。
- ⚠ 回転中のブレードに足や身体を触れないでください。けがをします。



- ⚠ この製品はバッテリーとエンジンを使用していますので、雨中での使用はしないでください。漏電、感電の恐れがあります。



(障害や損害を受けないために)

- ⚠ この製品を運転中や停止直後にエンジン、特にマフラーなどの発熱部には絶対触れないでください。やけどします。



- ⚠ この製品を斜面での作業に使用しないでください。暴走・転倒・横滑りをする恐れがあります。
- ⚠ この製品に最大ブレードを取り付けた際のブレード最高使用周速度は、下表に設定しています。設定されたエンジンの回転数以上に上げないでください。ブレードのチップが破損し飛び散って、けがをする恐れがあります。

■ ブレード最高周速度

型 式	最高周速度 [m/m i n]
V R C 1 4 A	3, 4 0 0

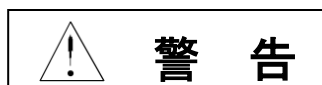
- ⚠ クリーナーモータの排気口はふさがないでください。排気温度は40℃前後に上昇します。そのためモータカバーなどが熱を持ちますので注意してください。
- ⚠ 排気口をふさいだり、閉塞運転をしたりするとモータ焼損の原因となります。
- ⚠ フィルターの目詰まりや汚泥がタンク一杯になった際も閉塞状態になるので、速やかにフィルターの清掃および汚泥を廃棄してください。



危 険

(死亡事故を受けないために)

- ⚠ 可燃性のガス・引火性のガスの雰囲気では使用しないでください。また火気の近くや炎天下などの場所や腐食性の液体・ガスがある所で使用・充電・保管を行わないでください。爆発・火災・破裂・液漏れの恐れがあります。
- ⚠ バッテリーを火気に投入したり加熱したりしないでください。バッテリーを焼却すると有毒ガスや有毒物質が発生することがあります。
- ⚠ 本機を使用する場合は必ず専用バッテリーB 2 4 1 0 0またはB 2 4 1 0 4を使用してください。他のバッテリーを使用すると液漏れ・発熱・発火・破裂の恐れがあります。
- ⚠ バッテリーB 2 4 1 0 0またはB 2 4 1 0 4の充電は、充電器F Y 2 9 0 3 0 0 0以外で充電しないでください。
また充電器はバッテリーB 2 4 1 0 0またはB 2 4 1 0 4を充電する目的以外で使用しないでください。液漏れ・発熱・発火・破裂の恐れがあります。
- ⚠ バッテリーB 2 4 1 0 0またはB 2 4 1 0 4を充電する場合、静電気の発生する場所では使用しないでください。
- ⚠ バッテリーの端子に錆や浸水痕跡を発見した際、充電や本体への装着および使用を中止してください。
- ⚠ 充電器またはバッテリーを分解・改造しないでください。
破損・発熱・発火・破裂・爆発の原因となります。
使用前に損傷がないか十分点検してください。異常が見られる場合や故障したときは、使用者が修理を行わずに最寄りの支店・営業所にお申し付けください。
- ⚠ 本機・充電器・バッテリーは、雨の中や湿った場所での使用・放置・保管をしないでください。また、ぬれた手でも操作しないでください。感電や発煙の恐れがあります。
- ⚠ バッテリーを釘やドライバー、金属製の箱、針金、銅線などの線材などと一緒に保管しないでください。金属がバッテリー端子に触れ短絡（ショート）し火災・発熱・感電・破損の原因となります。保管する場合は充電ボックスに入れてください。
- ⚠ バッテリーに釘を刺す、投げる、落とすなど衝撃を与えないでください。衝撃などにより破損したバッテリーを使用・充電しないでください。発熱・発火・破裂・爆発の原因となります。
- ⚠ バッテリーの液が目に入ったり皮膚に付着したりした際は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流し医師の診断を受けてください。破損したバッテリーが液漏れする場合は、ゴム手袋などを使い液が皮膚に触れないよう注意してください。液が衣類に付着したら直ちに衣類を脱いでください。皮膚障害の原因となります。



(死亡事故を受けないために)

- ⚠ 充電器を使用する場合は湿度の高い場所やぬれた場所を避け、風通しのよい場所で充電してください。発煙・発熱・発火・感電の恐れがあります。
また充電ボックスの通風孔をふさがないでください。十分に換気ができるように通風孔の掃除をしてください。充電器の付近にて喫煙や火気を使用しないでください。爆発の原因となります。
- ⚠ 充電器の電源プラグを抜く場合はコード部分を引っ張らず、必ず電源プラグ部分を持って抜いてください。熱や油などによる劣化や鋭い突起物によりコードが断線しないように注意してください。
コードや電源プラグに傷や亀裂・破損などがある場合、短絡（ショート）を起こし火災・発熱・感電・破損の原因となります。もしコードや電源プラグが破損したときは、その充電器を使用せずに充電器を交換してください。
- ⚠ 充電する場合は充電器の周囲温度が0～40℃の範囲内で使用してください。
範囲外の温度にて充電を行うとバッテリーに致命的な損傷を与えることがあります。
- ⚠ 充電器を掃除する場合は電源プラグをコンセントから抜いて掃除してください。
電源コードや充電器の接点部、金属などが触れたり、ほこりが掛かったりしないよう注意してください。短絡（ショート）を起こし火災・発熱・感電・破損の原因となります。
本機をメンテナンスする場合はバッテリーを本体から取りはずして行ってください。
- ⚠ 安全上バッテリーや充電器・充電ボックスおよび本機は、子供の手の届かない場所で保管し使用してください。
- ⚠ バッテリーは周囲温度が40℃以上になる場所や湿度が高い場所では保管しないでください。（炎天下・夏の車中・暖房器具の近く・金属製の箱の中・風通しの悪い倉庫など）発煙・発熱・故障の原因となります。
- ⚠ バッテリーを電子レンジや高圧容器に入れないでください。
バッテリー内部が損壊し発熱・発火・破裂の恐れがあります。
- ⚠ 充電中または本機を使用中に異臭・発熱・発煙・変形・変色など今までと異なる状態の際は、直ちに使用を中止しバッテリーを取りはずしてください。
発火・発熱・破裂の原因となります。

- ⚠ 充電器を使用する場合は必ずAC 100Vコンセントに接続して使用してください。
その他の電圧、直流電源、昇圧器などのトランス類では使用しないでください。その他の電圧で使用すると破裂・火災・発煙・発熱・感電などの原因となります。
また、充電器は発電機では使用しないでください。異常に発熱し、火災の恐れがあります。
- ⚠ バッテリーの充電中バッテリーや充電器に布類や紙類などの可燃物を載せる、覆うなどしないでください。また、畳やカーペット、ダンボール、ビニールなどの燃えやすいものの上では充電しないでください。
発火・発熱・破裂の恐れがあります。
- ⚠ ラッカーやペイント、ベンジン、シンナー、ガソリン、ガス、接着剤などのある場所で充電しないでください。爆発や火災の恐れがあります。
- ⚠ 使用時間が極端に短くなったバッテリーは使用しないでください。
発熱・発火・液漏れなどの恐れがあります。
- ⚠ 取扱説明書および充電器のラベルを必ず読んでください。
取扱説明書やラベルの内容を理解した上で使用してください。
取扱説明書やラベルの内容が不明な場合は最寄りの支店・営業所にお申し付けください。
- ⚠ 本機を使用する場合はバッテリーケースカバーを閉じてください。バッテリー接続部にゴミやほこりが付着すると短絡を起こし、火災・発熱・感電・破損の原因となります。
- ⚠ バッテリーを水、海水、飲み物などでぬらさないでください。バッテリーに組み込まれている保護回路が壊れ異常な電流、電圧でバッテリーが充電され発熱、破裂、発火の原因になります。
- ⚠ バッテリーを長期間使用しない場合は、本機から取りはずして湿気の少ないところに保管してください。
- ⚠ バッテリーはプラス・マイナスの向きが決められています。充電器や本機に接続するときにうまくつながらない場合は、無理に接続しないでください。バッテリーを液漏れ、発熱、破裂、発火させる原因となります。
- ⚠ バッテリーは充電器を介さずに直接電源コンセントや、自動車のシガレットライターの差し込み口に接続しないでください。感電したり、高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れたり、バッテリーが液漏れしたり、発熱、破裂、発火させる原因になります。
- ⚠ バッテリーの端子に直接ハンダ付けなどしないでください。熱により絶縁物が溶けたりガス排出弁や保護機構が損傷したりして発熱、破裂、発火の原因になります。

- ⚠ 動物・ペットのそばにバッテリーを放置しないでください。噛んだりしてバッテリーが破損し、発熱、破裂、発火の原因になります。
- ⚠ 充電器のコードは必ず伸ばして使用してください。また、電源コードの延長や継ぎ足しは火災、感電の恐れがあります。電気容量に合ったコードを使用してください。

 注 意

(障害や損害を受けないために)

- ⚠ 充電時以外は充電器のプラグをコンセントから抜いてください。発火・発熱・感電の原因となります。また充電目的以外ではバッテリーから充電器のコネクタを取りはずしてください。
バッテリーの劣化や発火・発熱の原因となります。
- ⚠ 使用しないときは、電源コードや充電器の接点部にほこりが掛からないように充電ボックスに入れて保管してください。
- ⚠ 充電する場合は40℃未満の所で使用してください。
- ⚠ バッテリーは、残量のランプが2灯以上点灯する状態で保管し定期的に充電してください。
長期間使用しない場合はバッテリーが故障することがあります。
約6ヶ月に一度満充電をしてください。長期間保管する場合もバッテリー残量のランプが2灯以上点灯する状態で保管してください。

○ ま え が き

このたびは湿式バキュームカッターをお買い上げいただきありがとうございます。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

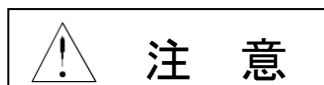
この製品の性能を十分に理解して適切な取り扱いと点検整備を行い、いつまでも安全に効率よく使用されるようお願いいたします。なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

本書の仕様は改良などのため、予告なく変更されることがあります。

も く じ

☆ 安 全 情 報	1
○ ま え が き	8
○ 安 全	10
○ 各部の名称	12
○ 操作上の説明	13
○ バッテリーの充電	23
○ バッテリーの保管	26
○ ガイドバーの調整	27
○ ブレード取り付け方法	28
○ 昇降軸の固定方法	29
○ 駐車ブレーキの使用法	30
○ 吊り方法	31
○ エLEMENTフィルターのメンテナンスと交換	32
○ バキュームクリーナー内部のメンテナンス	33
○ 汚泥タンクの洗浄	33
○ クリーナーの保護装置について	34
○ ブラシ高さ調整	35
○ 使用後の清掃	35
○ 点 検	36
○ Vベルト調整	37
○ オイル交換・点検方法	38
○ 消耗部品の交換時期	40
○ カッター（切削部）についての故障診断	40
○ 充電器、バッテリーについての故障診断	41
○ バキュームクリーナー部についての故障診断	42
○ 仕様・製品寸法	43
○ ブレード寸法図	45

○ 安 全



(作業上身を守るために)

- 作業する場合は安全帽・安全手袋・安全靴・顔面保護具（保護メガネ・マスク）および聴覚保護具を着けて、安全な装備で行ってください。



安全帽着用



安全手袋着用



安全靴着用



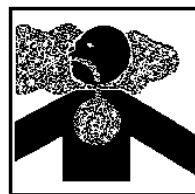
顔面保護具着用



聴覚保護具着用

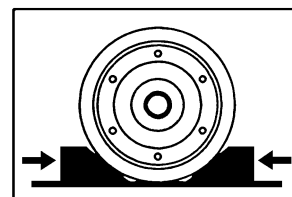
- 作業中、作業員以外の人を本体の周りには絶対に近づけないでください。切断物のキリコなどが飛んできて、思わぬけがをする恐れがあります。
- 作業中、本体の周りに燃えやすいもの（おが屑・紙屑および木屑など）や危険物（油脂類・石油類など）を近づけないでください。
- 本体の吊り上げ、吊り下げは、吊具を使用してください。また、吊り上げた本機の下には入らないでください。

- この製品は気密性の高い場所や換気の悪い場所では使用しないでください。
排気ガス中毒になります。



- 斜面を走行する場合は、クラッチレバーを“入”にして走行ハンドルで走行してください。暴走しないよう十分注意してください。
- この製品は重量物ですので手で持ち上げないでください。けがをする恐れがあります。

- 保管・休憩などで停車する場合は、斜面には止めないでください。
車で運搬する場合は、本機が動かないようロープなどで縛り、さらにクラッチを“入”にし、輪止めをして固定してください。



※ “クラッチ” は、ブレーキではありません。輪止めをしてください。



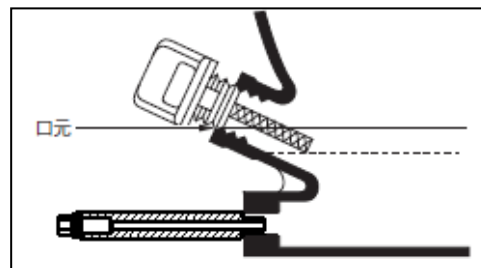
(末永く使用していただくために)

- この製品のエンジンを始動する前に必ずオイル給油キャップをはずし、オイル量を点検してください。オイルが不足・劣化していると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。

オイルの交換時期、オイル量を守ってください。

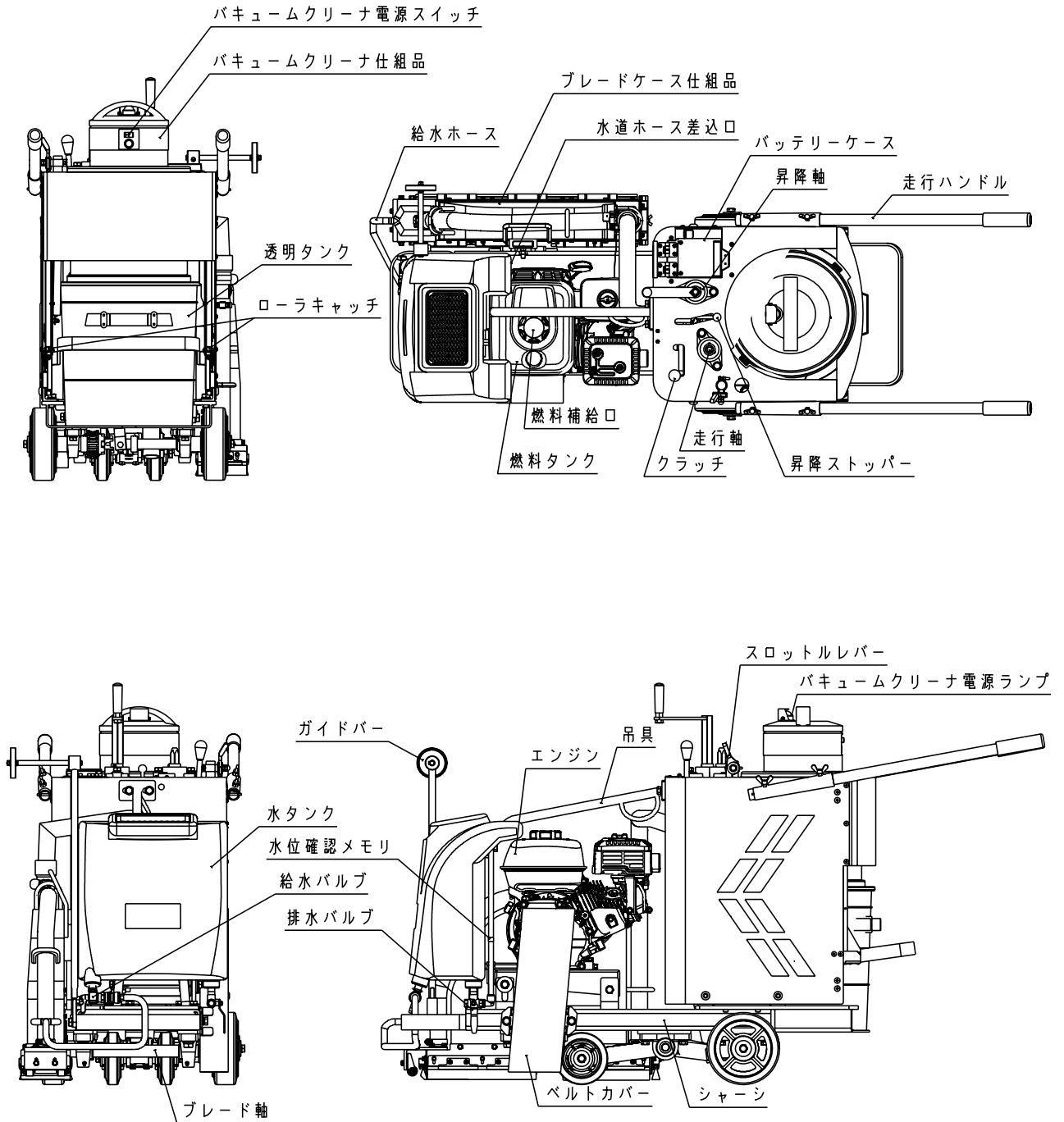
型式	オイル量
VRC14A	0.6L

※ オイルの点検および交換方法は、エンジンの取扱説明書を参照してください。



- オイル量の点検は、エンジンが傾斜していると油量の確認ができないため水平に行ってください。
- オイル量の点検はオイルが冷えている状態、またはエンジン停止後5分ほどしてから行ってください。
- 雨の日は屋外で使わないでください。

○ 各部の名称



○ 操作上の説明

 この製品を使用する場合は、気密性の高い場所や換気の悪い場所では使用しないでください。また、取り扱いには十分気を付けて作業を行ってください。

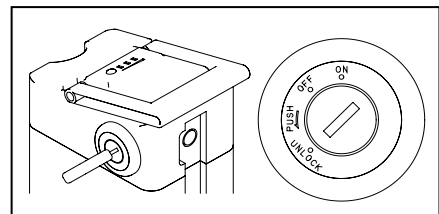
1. 運転前 **ブレードの取り付けから切断準備まで**

出荷前にセットアップ済みですが、使用前にもう一度確認してください。

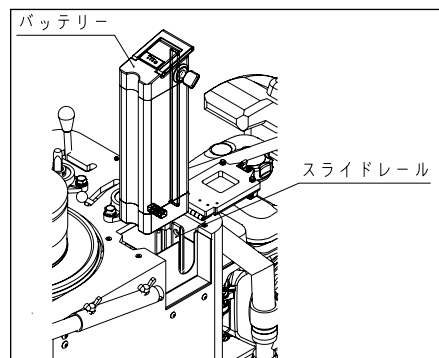
各部名称図を参考に行ってください。

<クリーナー部の準備>

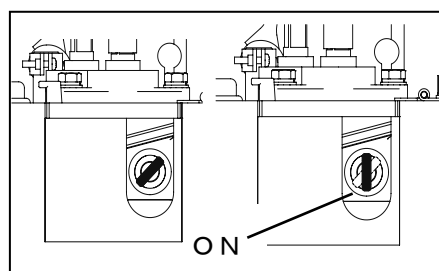
1. バッテリーにキーを差し込み、UNLOCKの所まで回してください。



2. バッテリーをカッターに装着してください。
スライドレールにバッテリーを合わせ、しっかり差し込んでください。

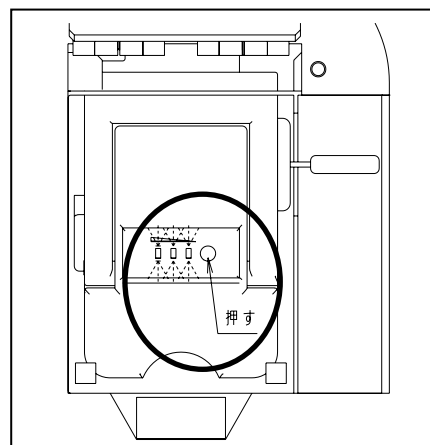


3. キーをONの位置まで回してください。

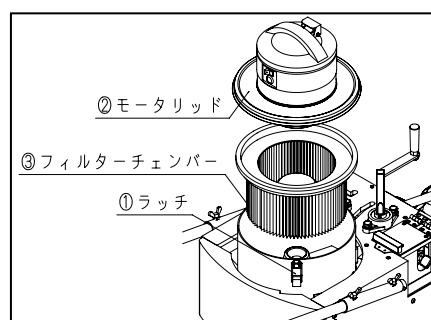


4. バッテリーの残量確認のため、バッテリーの充電確認ボタンを押して、充電の状況を確認してください。

※ ランプが1灯もしくは点灯しないとき、充電を行ってください。
「バッテリーの充電」 (23ページ)を参照してください。

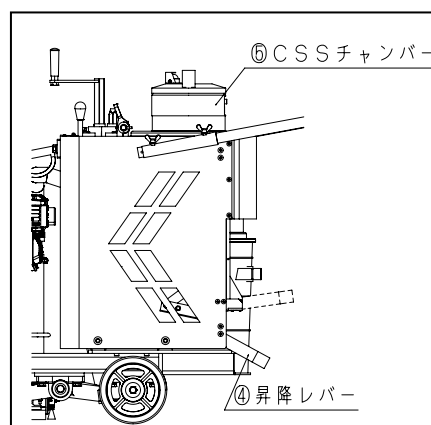


5. ①ラッチをはずし、②モータリッドを持ち上げ、③フィルターチャンバーが正確にセットされているか確認してください。
③フィルターチャンバーと②モータリッドの間に隙間があると、機密性が悪くなり正常な吸引力が得られません。

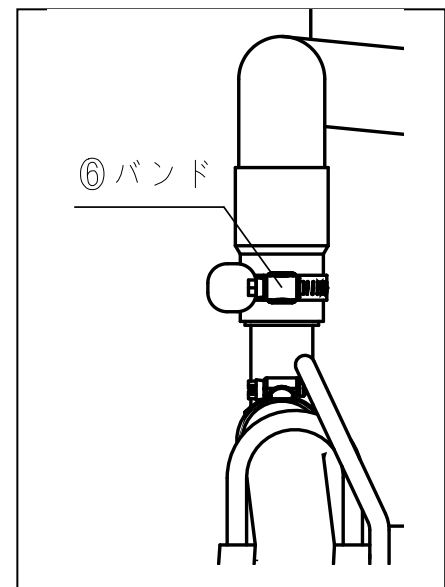


6. ①ラッチにより②モータリッドを固定します。

7. ④昇降レバーを下げ、⑤CSSチャンバーを上を持ち上げ、汚泥タンクとタンク蓋が正確にセットされているか確認してください。初めて使用する場合は、④昇降レバーを一度下げタンクをはずしてください。それから、もう一度タンクをセットして④昇降レバーを上げて⑤CSSチャンバー部がしっかりタンクにセットされるか確認してください。⑤CSSチャンバー部は、ゆっくり下降します。④昇降レバーをゆっくり持ち上げてください。

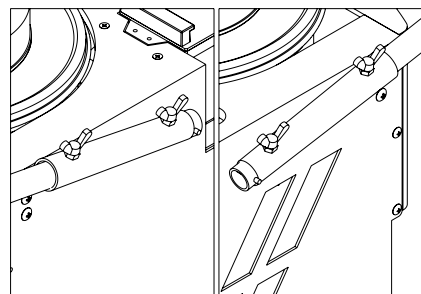


8. タンクの蓋が⑤C S Sチャンバーに確実にセットされているか確認し、⑤C S Sチャンバーを下に軽く押し付けてください。確実にセットできず隙間があると機密性が悪くなり正常な吸引力が得られません。
9. 正常な吸引力が出ているか、吸引ホースを留めている⑥バンドを緩めホースをはずし、クリーナースイッチをONにして手を当てて吸引力を確かめてください。吸引が弱い場合は、それぞれの接続がしっかり行われているか確認してください。しっかり行われていないと機密性が保てず吸引性能が発揮できません。



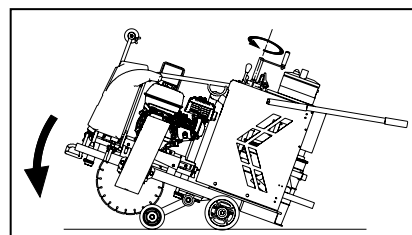
＜切削部の準備＞

1. 昇降軸に操作ハンドルをセットし右に回してブレードが取り付けられる高さまで上げてください。
2. 蝶ボルトを緩めてブレードケースをはずしてください。
3. 付属のスパナを使用しブレード軸にスパナ 24 mm、ナット (M24 左) にスパナ 36 mmを使用してナット (M24 左) をはずし、ブレード押えをはずしてください。
4. ブレードをブレード軸に取り付けてブレード押え・ナットで固定してください。
※「ブレード取り付け方法」 (28 ページ) を参照ください。
5. ブレードにスケールを当てブレードの位置を確認しながら、ガイドバーの車輪の位置を合わせてください。「ガイドバーの調整」 (27 ページ) を参考に行ってください。
6. ブレードケースを取り付けてください。
7. 水タンクに水を満タンにしてください。
※ タンクに給水の際はタンク下の給水バルブ・排水バルブのコックを閉めてください。
8. 使用前に給水バルブコックを開き、シャワーノズルが目詰りしていないか確認してください。
9. 走行ハンドルを適当な位置に調整し、2 本の蝶ボルトでしっかり固定してください。
※ 確実に固定されているか再確認してください。



10. 切断作業を行う位置まで本機を移動してください。

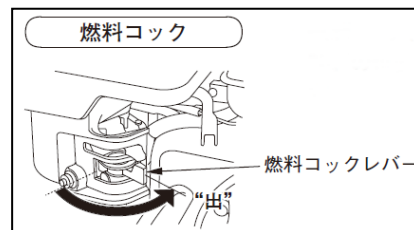
11. 操作ハンドルを昇降軸にセットして左に回し、ブレードを路面から 4 ~ 5 cm 離れた位置に調整してください。



12. ブレードが切断線に沿って走行するように、ガイドバーを降ろして本機的位置決めを行ってください。
13. クラッチレバーを右に倒し“入”にします。
※ クラッチの入りがスムーズにいかないときは、操作ハンドルを走行軸にセットし、ゆっくり回しながらクラッチレバーを入れてください。
14. ブレードケースの蝶ボルトを緩め、ブラシが地面に接地するようにします。

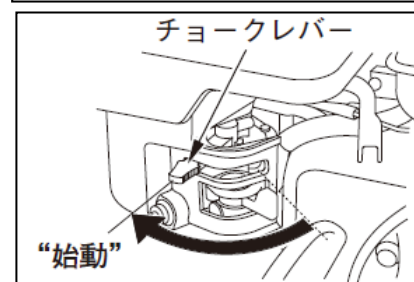
2. 運 転 エンジン始動から切断開始まで

1. 燃料コックレバーを“出”の位置に合わせます。

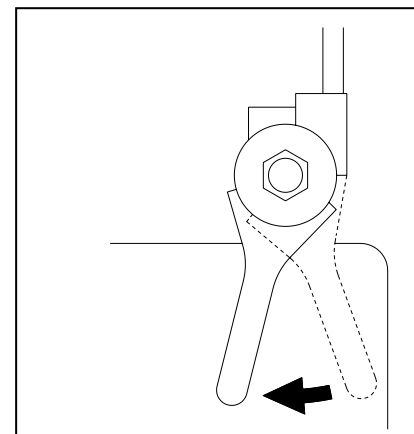


2. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には
チョークレバーを“始動”の位置に合わせま
す。

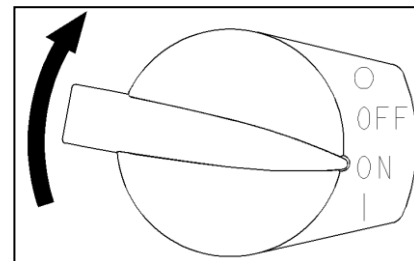
※ エンジンが暖まっているときは操作不要
です。



3. スロットルレバーを低速から高速の方向に約
1／3 開いた状態にします。



4. エンジンスイッチを“ON”（運転）の位置
にしてください。



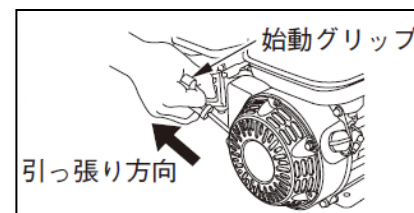
5. 作業機側の安全な部分をしっかりと押さえ、
始動グリップを静かに引き、重くなる所で
止めます。次に矢印方向に強く引っ張りま
す。

※ 始動グリップを引いたまま手を放さない
でください。

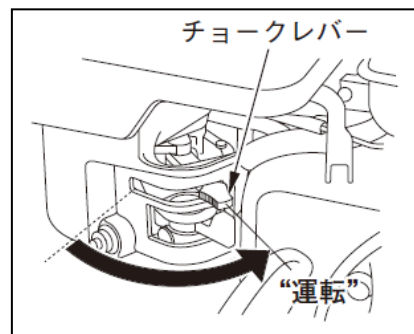
始動装置や回りの部品を破損することが
あります。

※ 運転中は始動グリップを引かないでくだ
さい。

エンジンに悪影響をあたえます。

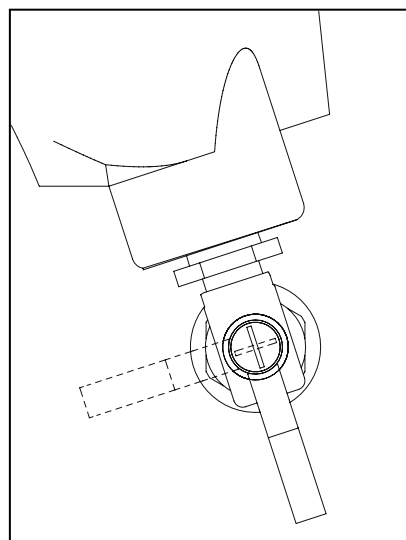


6. チョークレバーを“始動”にした際、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。

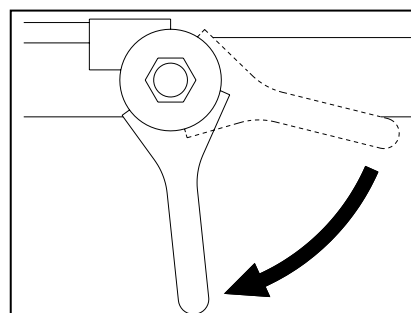


7. エンジン始動後、負荷をかけずに1～2分くらい低速側で暖気運転します。
8. エンジンやVベルトなどに異音などないことを確認してください。
9. バキュームクリーナーの電源を入れ、クリーナー作動ランプが点灯していることを確認してください。

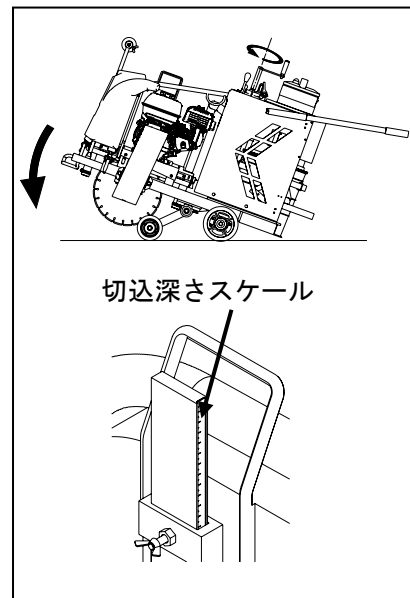
10. 給水バルブのcockを開きます。



11. スロットルレバーを徐々に高速側に操作し、全開にします。



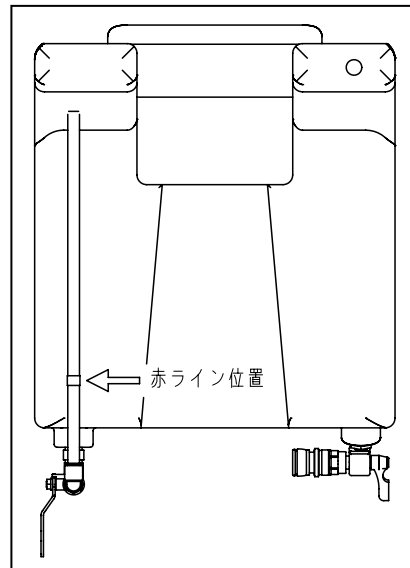
- 12.昇降軸に操作ハンドルをセットした状態でゆっくり左に回し、切り込み作業を行ってください。
- ※ 切り込み深さは、切り込み深さスケールで確認することができます。



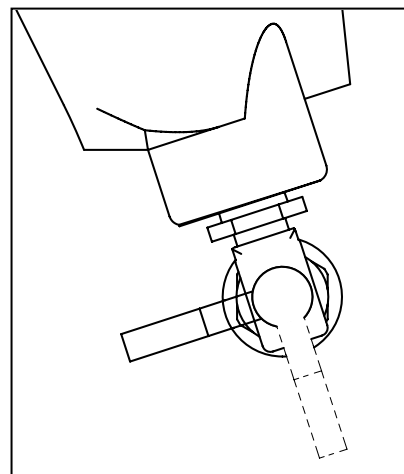
- 13.必要な切り込み深さに設定したら、昇降軸を固定してください。
- ※ 「昇降軸の固定方法」 （29ページ）を参照ください。
- 切り込み深さが深いときは、切断を2～3回に分けて行ってください。
- 操作ハンドル1回転で約8mm切り込みます。
- 14.操作ハンドルを走行軸にセットし、走行ハンドルをしっかり握りながら操作ハンドルを左に回して切断走行を行ってください。
- ※ 切断速度が速いと過負荷になり、エンジンの停止やVベルトの寿命が著しく短くなりますので注意してください。また、切断作業中に本体の方向を変えたり走行を速めたりして、ブレードに無理な負荷をかけないでください。

3. 停 止 切断終了からエンジン停止まで

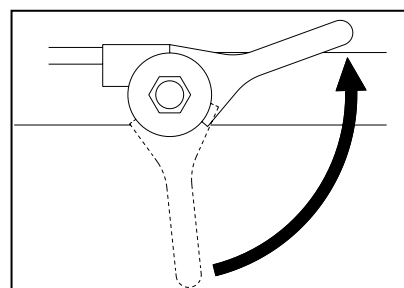
- 切断が終了した際、もしくは切削水が不足した際、次のようにエンジンを停止してください。切削水は水タンクの水位計の赤ライン位置にくると水圧が不足して切削水量が足りなくなりますので、
＜切削部の準備＞7を参照し、水タンクに水を入れて切断してください。



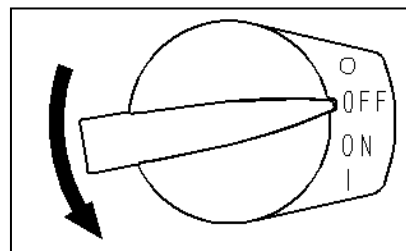
1. 昇降軸の固定を解除します。
2. 操作ハンドルを右に回してブレードが路面から4～5 c m離れる所まで上げてください。
3. 給水バルブのcockを閉じます。



4. クリーナーの電源を切ります。
5. スロットルレバーを低速の位置にして、2～3分間運転します。



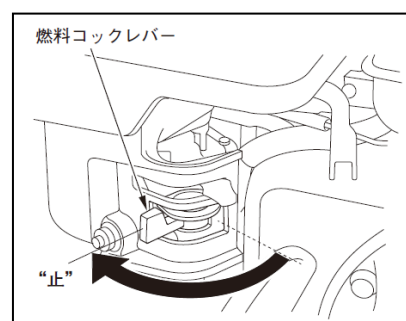
6. エンジンスイッチを“OFF”（停止）の位置に回します。



7. ブレードケースを持ち上げ地面より 3 c m程度離れた位置で、蝶ボルトで固定します。

8. 昇降レバーを下げて回収した切削水を取り出し、回収容器に移してください。
※ 回収した切削水は産業廃棄物処理業者に処分してもらうなど適正に処分してください。

9. 燃料コックレバーを“止”の位置に合わせます。



○ バッテリーの充電

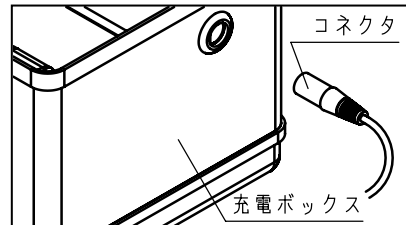
 **バッテリーの充電は、本機からバッテリーを取り出して充電ボックスの中にバッテリーを入れ、蓋を閉めて充電してください。**
※ バッテリーの充電に関する手順および注意事項（充電ボックス内貼り付け）も合わせて参照ください。

○ 充電する場合は、下記の条件を満たす所で行ってください。

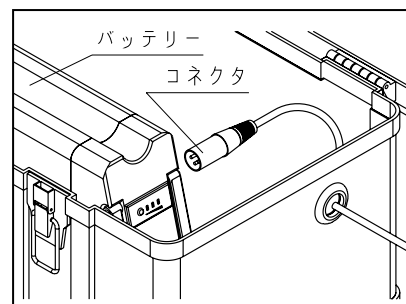
- 直射日光が当たらない高温にならない所
- 周囲に可燃物・引火性がない所
- コンクリートなど不燃物の上
- 風通しがよく湿気の少ない所
- 落下の恐れがなく、平坦で安定のよい所
- 直射日光や雨つゆの当たらない所
- 周囲温度が0℃～40℃の所
- 水が掛からない所
- 子供やペットなどがいたずらしない所
- 静電気が発生しない所

■ 充電の手順

1. 充電器のコネクタを充電ボックスに入れます。



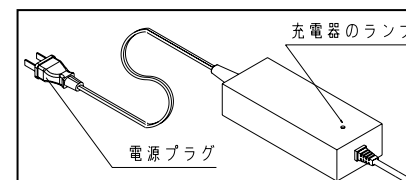
2. バッテリーにコネクタを差し込み、充電ボックスに入れます。



3. 充電ボックスの蓋を閉め充電器の電源プラグを、AC 100Vのコンセントに差し込みます。

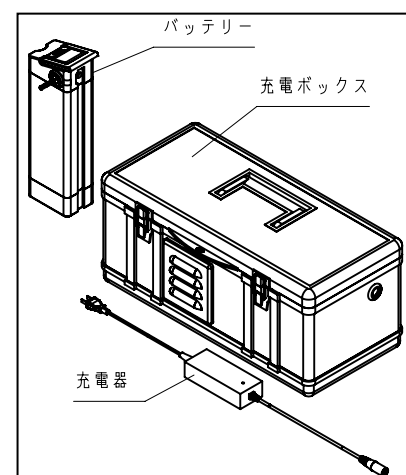
4. 充電器のランプが赤色に点灯したら、充電が開始されます。

※ バッテリーが満充電のとき、充電器とバッテリーを接続した後、電源プラグをコンセントに差し込むと、保護回路が働き緑色のランプが点滅します。



5. 充電が完了すると、充電器のランプが緑色に変わります。充電中は、充電器およびバッテリーは熱くなりますが異常ではありません。

※ 充電時間は約4時間ですが電池の残量、外気温などにより充電時間は変わります。



<注意事項>

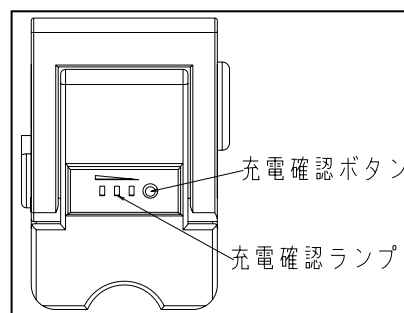
- 雨や水にぬれた、衝撃を受けた、異臭、発熱、発煙、変形、変色、液漏れなど今までと異なる状態のバッテリーは発火の恐れがありますので廃棄処分してください。
- 使用時間が極端に短くなったバッテリーは寿命です。新しいバッテリーと取り替えてください。
- バッテリーを保管する場合は、充電ボックスに入れて保管してください。

○ バッテリーの保管

1. バッテリーの保管は充電ボックスに入れ、周囲に可燃物がなく高温多湿にならない屋内の安全な所で保管してください。
2. バッテリーを長期間保管する場合は、バッテリー残量のランプが2灯以上点灯する状態で保管してください。
3. 月に一度はバッテリー残量を確認し、残量ランプが2灯以上点灯することを確認してください。2灯以上点灯しない場合は、バッテリーを充電し残量が著しく低下しないようにしてください。
4. 周囲温度が0℃～40℃の場所で保管してください。
5. 充電せずに長期保管した際、バッテリーが十分に充電できなくなる、もしくは使用できなくなる可能性があります。
6. 長期保管後に再使用する場合は、予めバッテリー残量を確認し不足しているときは必ず充電してください。
※ バッテリーが劣化する条件（以下のような条件では、劣化が早まります。）
 - 放置期間が長く使用頻度が低いとき。
 - 電池残量が少ない状態で長期間放置したとき。
 - 高温になる場所で充電の繰り返しとき。
 - 高温になる場所で保管したとき。

＜バッテリー残量の確認方法＞

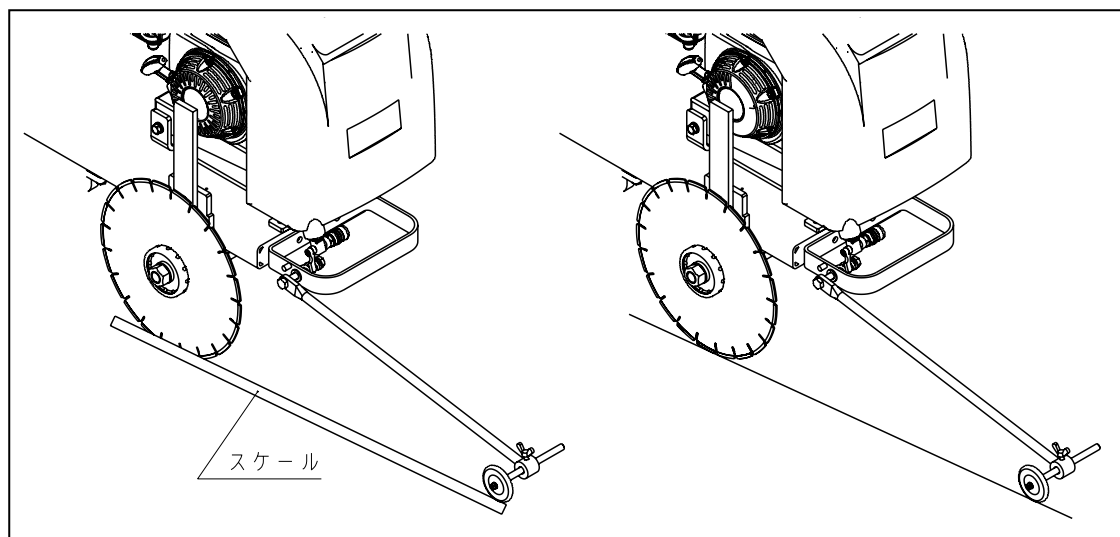
1. バッテリーにキーを差し込み、ONの位置まで回します。
2. バッテリーの充電確認ボタンを押して、ランプの点灯を確認してください。
※ ランプが1灯もしくは点灯しないときは、充電してください。



○ ガイドバーの調整

○ ガイドバーの車輪がブレード位置になるように調整してください。

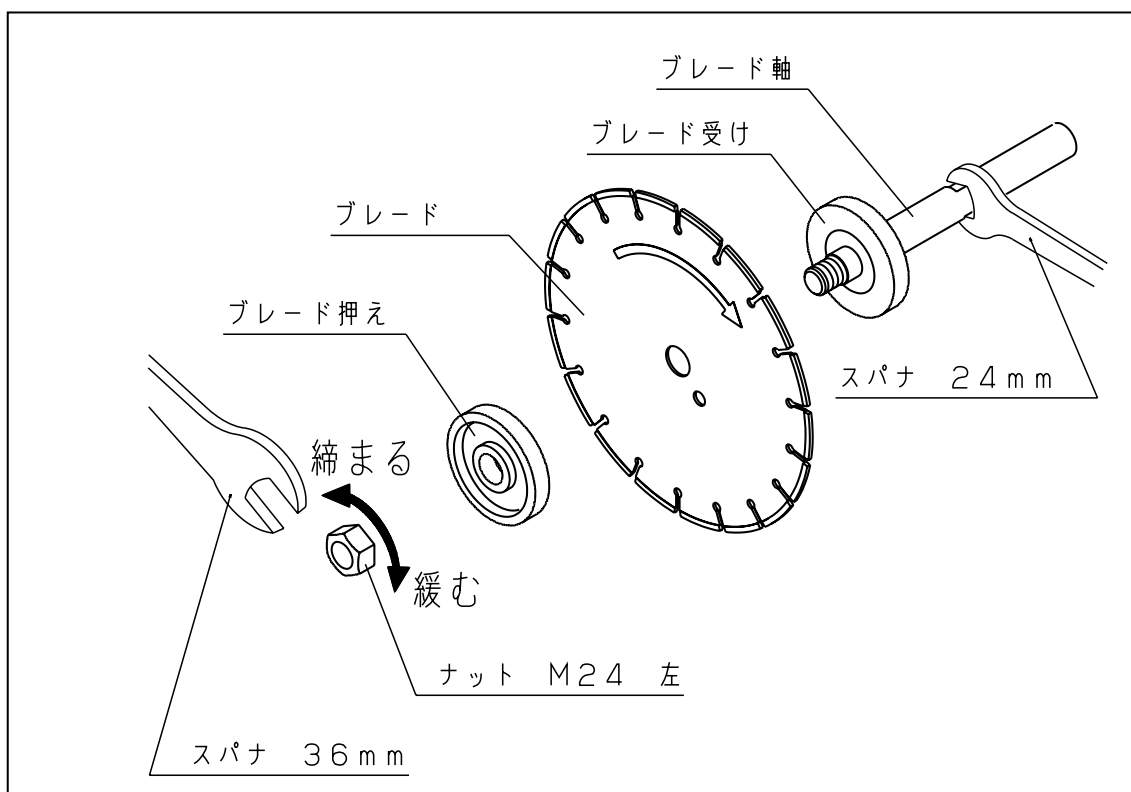
1. 昇降軸に操作ハンドルをセットし、右に回してブレードが取り付けられる高さまで上げてください。「昇降軸の固定方法」(29ページ)を参考にして昇降軸が回せるようボールレバーを解除してください。
2. 蝶ボルトを緩めてブレードケースをはずしてください。
3. 付属のスパナを使用してブレード軸の平々部に片ロスパナ24mmを差し込み、ブレードを固定しているナット(M24左)に片ロスパナ36mmを取り付けて、ナット(M24左)をはずし、ブレード押えをはずしてください。
4. ブレードをブレード軸に取り付けてブレード押え・ナットで固定してください。
※「ブレード取り付け方法」(28ページ)を参照してください。
5. ブレードにスケールを当て、ブレードの位置を確認しながらガイドバーの車輪の位置を合わせてください。



○ ブレード取り付け方法

⚠ ブレードを交換する場合は、必ずエンジンを停止しエンジンスイッチが“OFF”の状態で行ってください。

1. ブレードをブレード軸に挿入し、ブレード受けに押し当てます。
※ ブレードを取り付けるときは、ブレードの回転方向とブレード軸の回転方向を合わせてください。
2. ブレード押えをブレード軸に挿入し、ブレードに当てます。
3. ナットM24左をネジ込み、付属のスパナ24mmでブレード軸を押さえ、スパナ36mmでナットを確実に固定してください。
※ ハンマーでスパナを2～3回叩いて締め付けてください。
※ ブレードがしっかり固定されていることを確認してください。
※ ブレードの取り付け、取りはずしが終了したら付属のスパナ24mm、スパナ36mmは工具箱に戻してください。

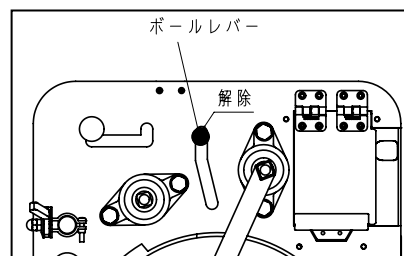


○ 昇降軸の固定方法

■ ストッパー開放状態

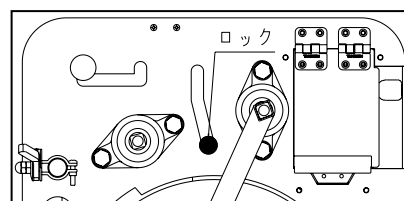
ボールレバーが前いっぱいにある場合は、昇降軸は解放状態です。

(昇降軸が回せます。)



■ ストッパーを固定させる。

1. ボールレバーを手前に移動させると、内蔵のスプリングでストッパーピンが引き込まれます。
2. 昇降軸に操作ハンドルをセットし少し回すとストッパーピンが昇降軸に設けた穴に入り、昇降軸が固定されます。固定されたことを確認してください。



■ ストッパーの固定を解除させる。

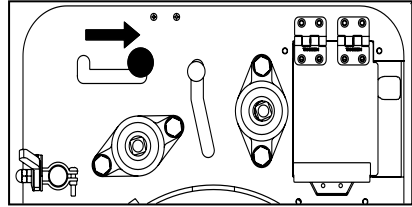
ボールレバーを前に移動させると昇降軸が解放されます。

※ ボールレバーが動かないときは昇降軸を左右に動かすと噛み込みがはずれ、動くようになります。

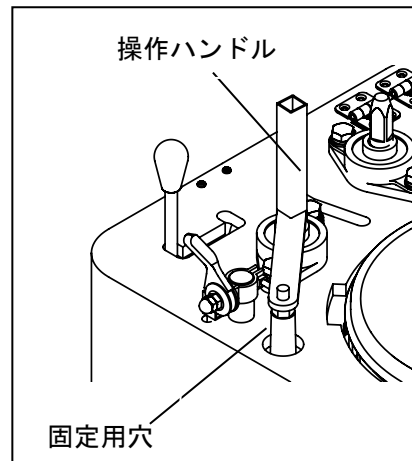
○ 駐車ブレーキの使用法

1. クラッチレバーを右に倒し、クラッチを“入”にします。

※ クラッチの入りがスムーズにいかないときは、操作ハンドルを走行軸にセットし、ゆっくり回しながらクラッチを入れてください。



2. 操作ハンドルを右図のように上下反対にして、タンクハウスの固定用穴にハンドル部が入るように走行軸に差し込みます。
操作ハンドルが固定され走行軸と後車輪は回転できない状態となり、駐車ブレーキとして機能します。

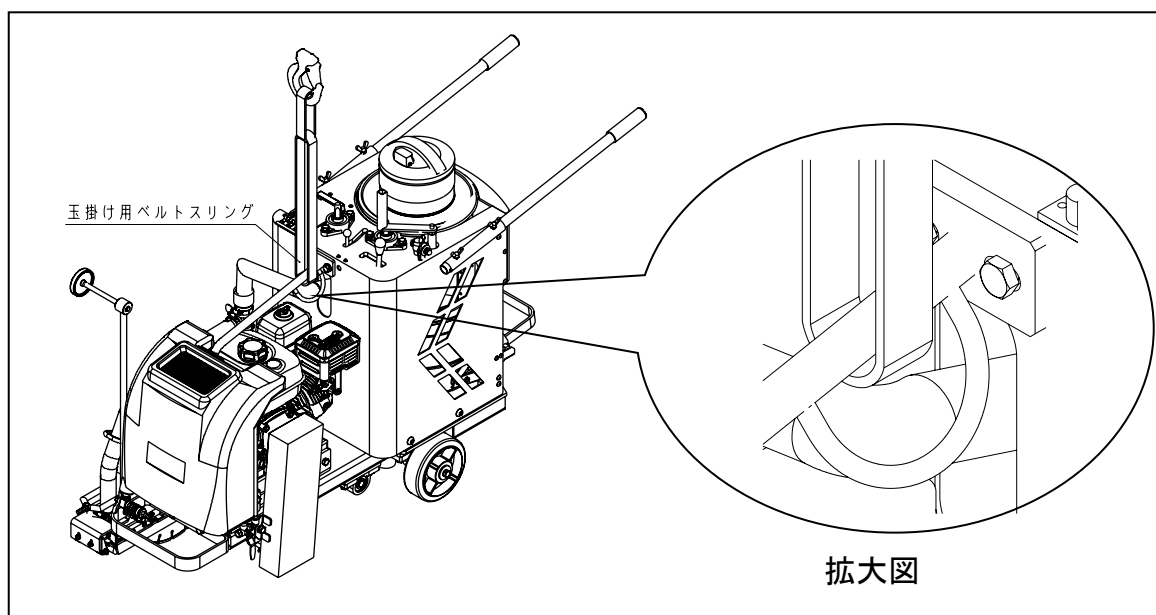


※ 注意

操作ハンドルをはずすと車体が動き出すことがありますので、安全のため車輪止めを行ってください。

○ 吊り方法

- ⚠ 本体を吊り上げ、吊り下げする場合は必ずエンジンを停止し、エンジンスイッチが“OFF”の状態で行ってください。
- ⚠ クレーンなどを使用して本機を吊り上げ、吊り下げする場合は有資格者が作業を行ってください。
- ⚠ クレーンなどの定格荷重が300kg以上のものを使用し作業を行ってください。



<作業方法>

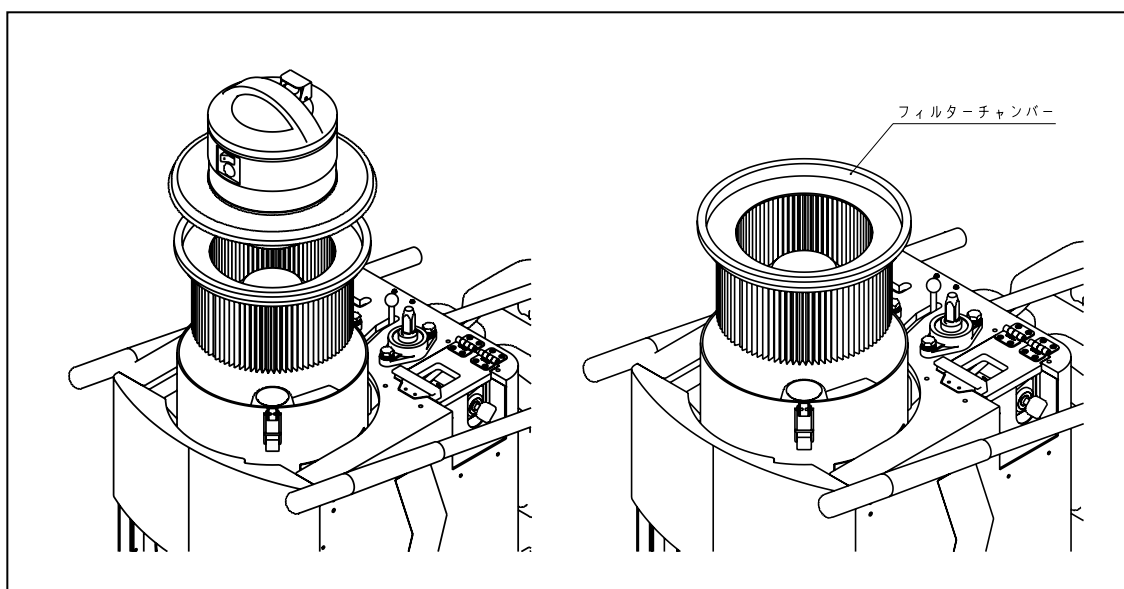
1. ブレードをはずし、水を抜いて本体を地面と水平になる位置にしてください。
2. 図の位置にベルトスリングをかけて吊り上げ、吊り下げ作業を行ってください。
 - ※ 図の位置以外を吊らないでください。
 - ※ 十分な場所を確保して作業を行ってください。
3. 車載後、本機が動かないようにロープなどで縛り、駐車ブレーキを使用してください。さらに固定が必要なときは車輪止めをしてください。

○ エレメントフィルターのメンテナンスと交換

- 使用後は点検も兼ねて付着したごみや粉じんを清掃してください。
著しく吸引力が低下した際は洗浄してください。

<フィルターの洗浄>

1. フィルターチャンバーは簡単に洗浄できます。水または中性洗剤で洗浄してください。
2. 最初に毛ブラシなどで付着したごみを取り除いてください。
3. 水または中性洗剤で詰まった汚れを洗い流します。



※ 注意

- 溶剤（シンナー、ベンジン、ガソリン、灯油など）は絶対に使用しないでください。
- 金属ブラシは絶対に使用しないでください。
- 洗浄後は十分に乾燥させてください。ぬれたままの状態では吸引すると、目詰まりを起こし十分な吸引力が得られません。
- 熱風やストーブのそばで乾燥は絶対にしないでください。フィルター側の耐熱温度は60℃です。

○ バキュームクリーナー内部のメンテナンス

○ 使用後は定期的に点検と清掃を行ってください。

1. C S S機構のキャップカバーは、3個のツマミで簡単に着脱できます。
2. C S S機構の内壁に付着したごみ、粉じん、汚泥などを清掃してください。
※ 本機の性能を維持し使用できるように、点検整備を行ってください。

○ 汚泥タンクの洗淨

○ 汚泥タンク（透明）の洗淨は、水または中性洗剤を使用してください。

※ 注意

- 溶剤（シンナー、ベンジン、ガソリン、灯油など）は絶対に使用しないでください。
タンクの耐久性を損なうばかりでなく、ひび割れ破損の原因になります。乾いた布で強くこすると帯電しごみが付着します。
- 強い衝撃や鋭角なものをぶつけたりしないでください。タンク破損の原因となります。
- タンクの取り扱いには注意してください。

○ クリーナーの保護装置について

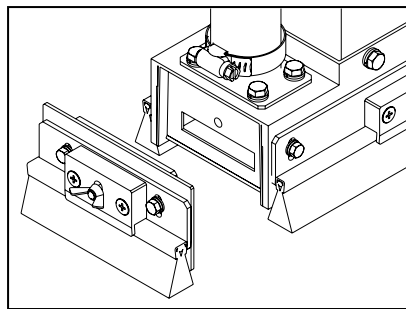
- 本機のバキュームクリーナーはモータの焼損を防止するため、内部に保護装置を搭載しています。モータが加熱すると保護装置が作動しクリーナーの運転を停止します。

保護装置が作動する場合

- フィルターが目詰まりを起こしているとき。
- 汚泥などをタンクいっぱいのまま運転し続けたとき。
- ホースやブレードケース下台などに小石や汚泥が詰まったとき。
- ホースなどの内側や外周に汚泥などが付着し極端に狭くなるなど閉塞状態や閉塞に近い状態で連続運転をし続けたとき。
- モータ冷却ファンのエアフィルターが目詰まりを起こしたとき。

保護装置が作動した場合

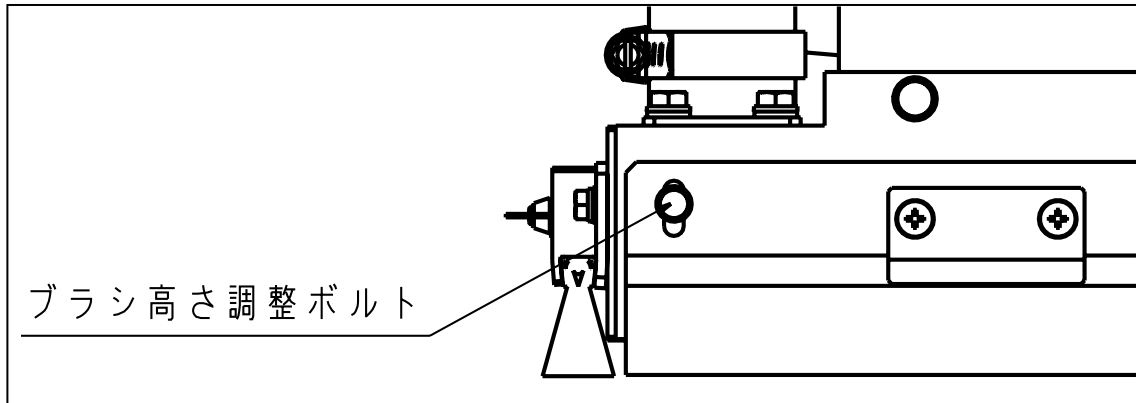
1. 速やかに運転スイッチをOFFにしてください。
2. フィルターの清掃をしてください。
＜フィルターの洗浄＞（32ページ）を参照してください。
3. タンクの汚泥などを廃棄してください。
4. ホースやブレードケース下台に詰まった小石などを取り除いてください。
※ ブレードケース下台の後ろ部分は、取りはずしができます。



5. ホースなどの内側や外周に汚泥などが付着し、極端に狭くなっていないか確認してください。
6. モータ冷却ファン用のエアフィルターの清掃、交換をしてください。
7. 涼しい場所に置いて温度が下がるのを待ってください。
※ 保護装置解除には約1時間かかることがあります。
（季節や周囲温度によって解除時間は異なります。）
※ 保護装置が復帰すると突然運転を再開しますので、必ずクリーナーの電源スイッチをOFFにしておいてください。

○ ブラシ高さ調整

○ ブラシの高さ調整は図のようにブラシを固定している板のボルトを緩め、上下に移動することによって簡単に調整ができます。



※ 出荷時は、ブレードケース下台から 9 mm 出ている状態に調整してあります。

○ 使用後の清掃

○ 使用後は必ず清掃してください。

1. 清掃する場合は、本機からバッテリーを取りはずしてください。
2. ブレード軸の周囲は、スラッジが飛散して汚れていますので必ず清掃してください。
3. シャワーノズルが目詰りしていないか確認して、詰っている場合は清掃してください。
4. ブレード押えおよびブレード受けが汚れていたら清掃してください。
5. 車輪、ピロー部を清掃してください。
ブレード軸ピローには清掃後グリスを充填してください。
6. ブレード軸の左ネジ部に、グリスを塗って錆を防止してください。
7. 走行ギヤー部および昇降ネジ部を点検しグリスが不足の際は塗布してください。
8. エンジンの取り扱いについては、付属のエンジン取扱説明書をお読みください。
9. クリーナー内部および汚泥タンクを清掃してください。
「バキュームクリーナー内部のメンテナンス」（33ページ）および「汚泥タンクの洗浄」（33ページ）を参照してください。
10. ブレードケース下台、クリーナーまでのホース内部を清掃してください。特にブレードケース下台は、小石が詰まりますので頻繁に清掃してください。
11. バッテリー接続部を清掃してください。

○ 点 検

○ 使用前と使用後は必ず次の項目を点検してください。使用中のトラブルをできるだけ少なくするためです。

1. 水タンク内の水は完全に抜いていますか？
2. 汚泥タンクの汚泥は廃棄していますか？
3. ブレードケース下台の吸入部に詰まりはありませんか？
4. ブレードケース内に汚泥が溜まっていませんか？
5. 吸引ホースの内側に乾燥した汚泥が付着して、ホースの断面積を小さくしていませんか？
6. クラッチレバーはスムーズに“入・切”できますか？
7. プーリの固定ボルトは緩んでいませんか？
8. 昇降機構は、操作ハンドルで最上点・最下点までスムーズに動きますか？
9. ベルトに傷・亀裂・摩耗はありませんか？
10. ベルトの張り具合は適切ですか？

※ 「Vベルト調整」（37ページ）を参照してください。

11. ブレード受けとブレード押えは付いていますか？
12. ブレード固定用のナットM2.4は付いていますか？スムーズに回りますか？

※ ネジ部にグリスを塗って錆を防止してください。

13. 水タンクに水漏れはありませんか？
14. シャワーノズルの目詰りはありませんか？
15. 給水バルブに詰りはありませんか？
16. 給水ホースの水漏れはありませんか？
17. エンジンオイルは汚れてないですか？
18. エンジンオイル量は適量ですか？
19. 燃料漏れはありませんか？
20. エンジンは始動できますか？
21. 運転音（エンジン音）は正常ですか？
22. バッテリー、充電器、バッテリー接続部の端子に汚れや錆など発生していないですか？

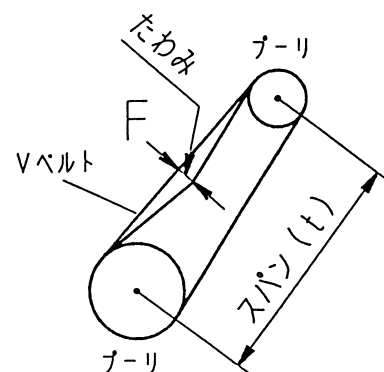
○ Vベルト調整

- ⚠ Vベルトの張り具合の調整は必ずエンジンを停止し、キースイッチが“OFF”の状態で行ってください。
- ⚠ Vベルトの張り具合によりVベルトの寿命や軸受の寿命などに大きく影響を及ぼします。現場へ搬入する前は必ず点検を行ってください。

■調整手順

1. ベルトカバーのボルトM10（2本）を緩め、ベルトカバーをはずしてください。
2. Vベルトのスパン（t）中央にたわみ荷重（F1，F2）を、Vベルトに垂直に与えてください。
 ※ たわみ荷重
 F1＝新品を張る場合
 F2＝張り直す場合
3. VベルトにF1またはF2の荷重を与え、Vベルトが伸びていたらエンジン台締め付けボルトを緩めVベルト調整ボルトで、たわみが下表になるよう調整してください。

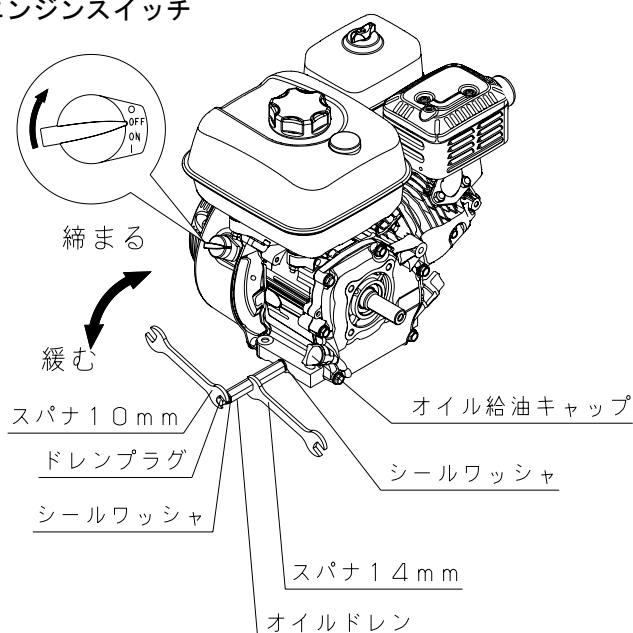
型 式	F 1 (N)	F 2 (N)	たわみ (mm)
VRC14A	10.7	9.4	4.7



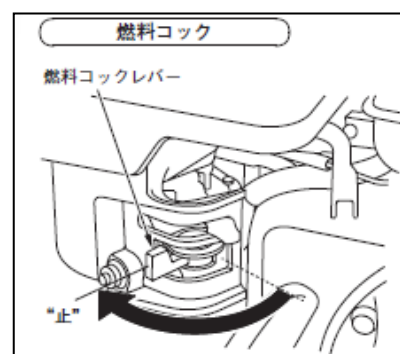
○ オイル交換・点検方法

⚠ オイルを交換する場合は必ずエンジンを停止し、エンジンスイッチが“OFF”の状態で行ってください。

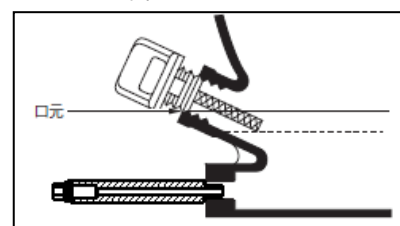
エンジンスイッチ



燃料コック



オイル量確認



<オイル交換>

1. エンジンを停止し燃料コックを閉め、エンジンが暖まっているときに行ってください。
※ 熱いオイルが身体にかかるとやけどしますので十分に注意してください。
2. オイルドレンにスパナ 14 mm、ドレンプラグにスパナ 10 mmをかけ、オイルドレンが回らないようにドレンプラグをはずしてオイルケースなどにオイルを排出してください。
※ オイルドレンが緩むとエンジンとの接続部からオイル漏れの原因になります。
3. オイルを注入する場合は、シールワッシャを間に入れドレンプラグをしっかり締め付けてください。
※ ドレンプラグが締め付けられていないとオイル漏れの原因になります。
4. オイル量はエンジンを水平にし、口元までオイルを入れてください。
5. オイルがエンジンなどに付着していたら綺麗にふき取ってください。
6. 使用オイル、オイル量は次表を参考にしてください。

<オイル量点検>

1. オイルの点検は、エンジン始動前に必ず行ってください。
2. エンジンを水平にし、オイル給油キャップをはずし注入口の口元までオイルがあるか確認してください。
3. 不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。

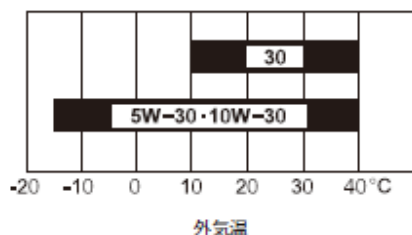
<使用オイル・規定オイル量>

型式	エンジン型式	オイル量
VRC14A	GX200T2 SHJE	約0.6L

<オイル交換時期>

初回：1ヵ月、または20時間どちらか早いほうで実施
2回目以降：6ヵ月、または100時間毎に実施

<使用オイル>



- ・ホンダ純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）または、API分類SE級以上のSAE10W-30オイルを使用ください。
- ・外気温度が-20℃以下および40℃以上の際は現地に適合した粘度、品質のものを使用。

☆ エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪いものを使用するとエンジンの摺動部や回転部の寿命を著しく縮めたり、焼き付きのトラブルを招きます。常に良質できれいなオイルを規定量保つように注意してください。

○ 消耗部品の交換時期

○ 消耗部品の交換は次の項目を参考にして確実に行ってください。

消耗部品	視覚による交換時期の判断	処置・交換時期（目安）
Vベルト	傷・亀裂・摩耗のいずれかが確認され次第	交 換
オイル	オイルの汚れ・減り具合で判断	初回： 1ヶ月、または20時間どちらか早いほうで実施 2回目以降： 6ヶ月、または100時間毎に実施
燃料パイプ	燃料漏れを確認次第	燃料漏れ確認次第、即交換 使用頻度にかかわらず2年で交換
バッテリー	充電器の表示で判断	発見次第

※ 消耗部品の交換時期は目安時間です。

使用状況により異なりますので早めの交換をおすすめします。

○ カッター（切削部）についての故障診断

現 象	症 状	原 因	処 置
ブレード軸は回転する	異音がする	ピローユニットの軸受、不良	交換
ブレード軸が回転しない	エンジンが始動する	ベルト切れ	交換
	エンジンが始動しない	エンジン不良（焼つき）	修理または交換

■ Vベルトセット型式

型 式	Vベルトセット型式
VRC14A	3VX-335-3

※ Vベルトは、必ず3本同時に交換してください。

※ エンジンやバッテリーの保守・点検については、付属の取扱説明書を参照してください。

○ 充電器、バッテリーについての故障診断

○ 充電器のランプ：赤色点灯は充電中。緑色点灯は充電完了。

現 象	症 状	原 因	処 置
充電 できない	充電器のランプ が点灯しない	電源プラグの差し込 み不良、バッテリーと 充電器プラグの差し 込み不良	電源プラグをしっかりと差し込む。 バッテリーに充電器プラグをしっかりと 差し込む
	充電器のランプ が赤のまま緑に 変わらない	充電直後ではありま せんか	充電後直ぐに充電しようとしても充電 しないことがあるので、満充電からの追 加充電はしないでください
		周囲温度が高い所（4 0℃以上）、あるいは 低い所（0℃以下）で 充電していませんか	バッテリーの内部温度が高いと充電し ないことがあります。涼しい所で充電し てください。バッテリーの温度が下がれ ば充電を開始します。温度が低い場合は 室温など暖かい所で充電してください。
		使用直後ではありま せんか	使用直後で電池の内部温度が高いと充 電しないことがあります。電池の温度が 下がれば充電を開始します。
充電中の 異常	異音、異臭、煙 が出る	原因不明	交換
充電器やバッテリーが熱く なる		バッテリーまたは、 充電器異常	充電中は約40℃～60℃になります が故障ではありません。手で触れられ ないほど熱いときは異常です。電源プ ラグを抜いて交換してください。
充電しても使用時間が短い		バッテリー異常	バッテリー交換（寿命です）

○ バキュームクリーナー部についての故障診断

現 象	症 状	原 因	処 置
切削水を吸引しない	モーターは動いていない	バッテリーの充電不足	バッテリー交換
		バッテリーの寿命	バッテリー交換
		断線	修理
		モータ焼損	交換
		カーボンブラシの磨耗	カーボンブラシを交換 1回目：400時間で磨耗 2回目：300時間で磨耗 3回目：200時間で磨耗 約900時間でモータ交換
切削水を吸引する力が足りない	モーターは動いている	フィルターが目詰まりしている	フィルター清掃、交換
		モーターリッドのずれ、タンクとクリーナーのずれなどの機密不良	リッドチャンバーやタンクなどの再セット
		リッドパッキンの不良	リッドパッキンの交換
		面板の変形、ゆがみ	変形、ゆがみの調整
		タンクの変形、ゆがみ、破損	ゆがみの調整、交換
		タンクに穴が開いている	タンク交換
		チャンバーパッキンのずれおよび消耗	パッキン交換
		モーターパッキンの消耗	パッキン交換
		ブレードケース下台、ホースなどに石などが詰まっている	清掃
		ホースの接続不良、ホースの亀裂	ホースの再接続、交換
排気から粉じんが吹き出る		フィルターが付いてない	フィルターを取り付ける
		フィルターに穴が空いている、破損	フィルター交換
排気から汚泥が吹き出る		エレメントフィルターがセットされていない	フィルターの取り付け
		C S S 機構の汚れ	C S S 機構の内側の点検、清掃、交換
		サイクロン部パッキンの不良磨耗	パッキン交換

※ 修理やオーバーホールをする場合は最寄りの支店・営業所にお申し付けください。

○仕様・製品寸法

■仕様

型 式		V R C 1 4 A
本体質量	[kg]	1 8 5
ブレード寸法	[mm]	2 5 6 ~ 3 5 6
	[inch]	1 0 ~ 1 4
ブレード取付穴	[mm]	2 7
切断深さ	[mm]	7 0 ~ 1 2 0
ブレード周速度 (エンジン定格速度時)	[m/s]	5 3
ブレード軸回転速度 (エンジン定格速度時)	[min ⁻¹]	2 8 4 0
切断深さ調整方法		ハンドルネジ方式
走行方法		手押し半自走
ブレード冷却方法		重力注水放射
水タンク容量	[L]	1 5
エンジン		G X 2 0 0 T 2 S H J E
形 式		空冷4ストローク傾斜型 OHV式ガソリンエンジン
総排気量	[cc]	1 9 6
定格速度	[min ⁻¹]	3, 6 0 0
連続定格出力	[kW/min ⁻¹]	3. 7 / 3, 6 0 0
	[PS/min ⁻¹]	5. 0 / 3, 6 0 0
潤滑油量	[L]	0. 6
潤滑油		ホンダ純正ウルトラU汎用 (S A E 1 0 W-3 0) またはA P I 分類S E級以上のS A E 1 0 W-3 0 オイル
燃料タンク容量	[L]	3. 1
燃 料		無鉛ガソリン
燃料消費率	[g/kW・h]	3 6 7
	[g/PS・h]	2 7 0
点火プラグ		B P R 6 E S (N G K) W 2 0 E P R-U (D E N S O)
始動方式		リコイル式
乾燥質量	[kg]	1 6. 1

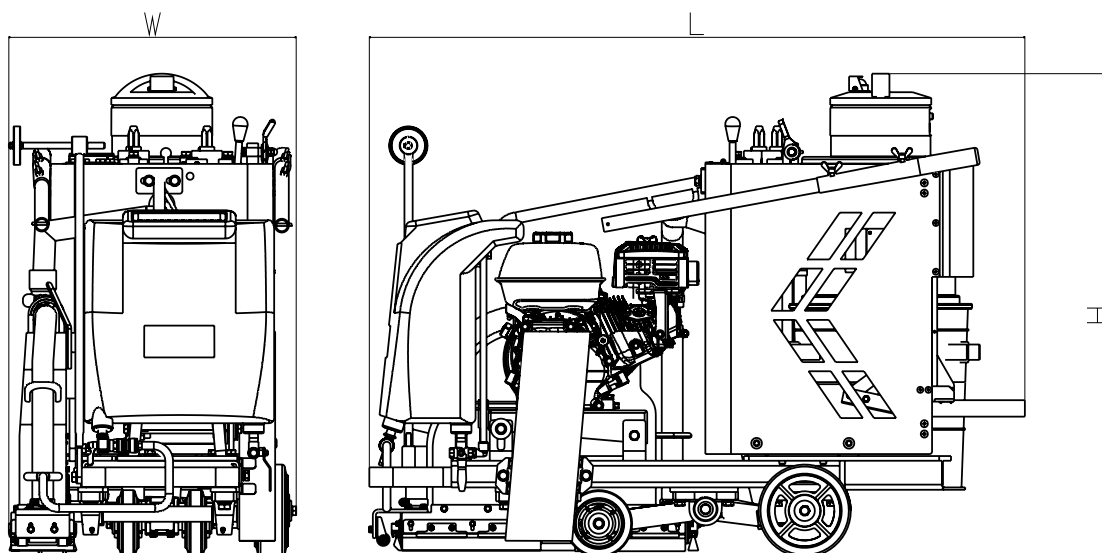
■ 製品仕様（バキュームクリーナー部）

電 圧	[V]	バッテリーDC 24 V
モータ出力	[W]	4 0 0
汚泥タンク容量	[L]	1 5

■ 製品寸法（格納時）

型 式	L (mm)	W (mm)	H (mm)
VRC 14 A	1 4 2 0	5 5 0	9 5 0

■ 製品寸法図



○ ブレード

(エクセン仕様)

○ ダイヤモンドブレード (コンクリートカッター用)

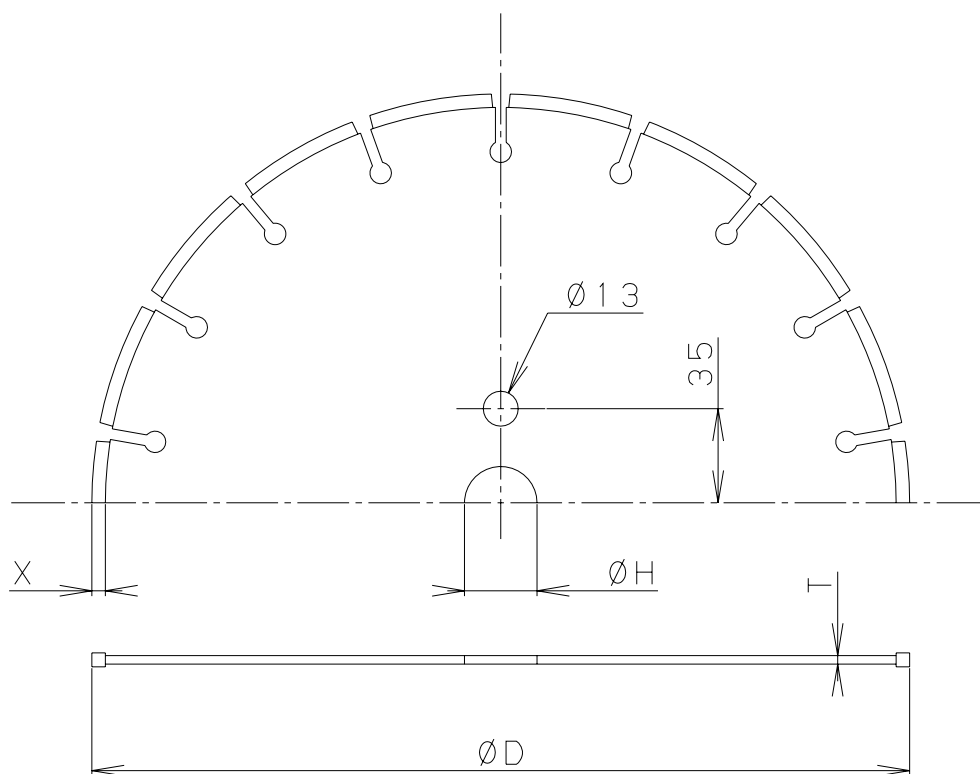
■ P/Cシリーズ (湿式)

Pタイプ: アスファルト・軟質コンクリート用

Cタイプ: 硬質・鉄筋コンクリート、レンガ、軟質石材用

型 式	サイズ (in)	φ D (mm)	T (mm)	X (mm)	φ H (mm)
P 1 2 S 静音タイプ	(1 2)	3 0 6	3 . 2	6 . 0	2 7
P 1 4 S 静音タイプ	(1 4)	3 5 6			
C 1 2 0	(1 2)	3 0 6			
C 1 4 0	(1 4)	3 5 6			

○ ブレード寸法図



⚠ 使用するダイヤモンドブレードの取扱説明書を熟読してから使用してください。



本社 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-17-13
草加工場 〒340-0003 草加市稲荷 5-26-1

Tel. 03-3434-8455 FAX 03-3434-1658
Tel. 048-931-1111 FAX 048-935-4473

<https://www.exen.co.jp/>